

平成 29 年度 調布市障害者地域自立支援協議会

障害理解の促進ワーキング

テーマ：障害理解の促進を考える

第1回ワーキング

日時：平成29年7月24日（月）18時～20時

場所：総合福祉センター 4階 視聴覚室

参加者：委員9名 事務局9名 欠席1名

小テーマ「障害理解の促進について～バリアフリーハンドブック～」

内容：①障害理解の促進ワーキングの目的について

障害理解の促進ワーキングの進め方や方針について、現時点で検討している内容を各委員に説明した。その説明の中で、障害理解を広げていく方法の一つとして、調布市で作成中のバリアフリーハンドブックに当ワーキングの意見を挙げていく事を各委員に提案をし、了承して頂いた。

②調布市バリアフリーハンドブックについて

各委員が活発に意見交換できるように、2～3人のグループに分かれ、調布市バリアフリーハンドブックに載せたい、日頃から利用しているお店について、その理由として挙げられる配慮や好事例等を話し合った。委員によっては、市内にある使いやすいお店、避けたいお店等は様々であり、その理由となる内容についてもハード面、ソフト面にそれぞれの意見が挙げられていた。好事例では、「お店側の教育が、店員の合理的配慮に繋がっているのではないか」との意見も挙がっていた。一方で、配慮が不足していた事例も報告され、障害や合理的配慮の理解を更に広げていく必要性が再認識できた。そのため、このハンドブックを活用しながら、障害ごとの特徴や合理的配慮等を広く発信していく方法について話し合うグループもあった。

主な意見

- よく漫画喫茶に行く。プライベートな空間があって自分の好きな時間が過ごせる。その情報をコラムにして掲載したら「私も漫画喫茶に行こう」となる人が出てくるかもしれない。
- お店の設備面の情報が載っていると助かるのではないかと。チェーン店であっても設備はまちまちであり、車椅子が入れるボックス席があったり、段差や店が狭くて移動に大変な店等。
- 回転寿司屋などにあるタッチパネルが良い。頼んだものが確実に来て、店員さんとトラブルになることも無い。他人とあまり関わりたくない人にとっては助かる。
- 店員さんが当事者に理解のあるお店。そんなお店の情報が助かる。
- ハンドブックと言わず、その情報をインターネット上にのせてもらえないか。
- 食事提供までの時間が分かっただけならイラストすることも少なくなるのに。
- 移動しているとすぐに疲れてしまうので市内でちょっと休憩できる場所なんかも載っていて欲しい。

まとめ

グループごとに調布市バリアフリーハンドブックに載せたいお店、合理的配慮について話し合い、日頃お店を活用する際に望む配慮やその情報について各委員で共有する事が出来た。そこでは、発達障害のある方が活用しやすいお店や場所が、身体障害のある方にとってはその逆となってしまうケース等が報告され、障害によって求める配慮、活用しやすい場所はそれぞれ異なる事も再認識出来た。また、バリアフリーハンドブックのお店情報等に載せきれない内容については、コラムとして載せる等の提案もあった。今後は、障害ごとに異なる合理的配慮と障害理解を促進していく方法について検討していく事がワーキングの方向性として確認された。

第2回ワーキング

日時：平成29年10月2日（月）18時～20時

場所：総合福祉センター 2階 201-203

参加者：委員9名 事務局9名 欠席1名

小テーマ「バリアフリーハンドブックへの意見だし・今後開催予定の福祉フォーラムの企画案について情報共有・市役所職員向け研修の報告」

内容：①前回ワーキングの振り返り・バリアフリーハンドブックへの意見だし前回のワーキングでグループ毎に話し合われた内容を表としてまとめ、そこで挙げられた意見を委員間で共有し、振り返りを行った。意見として挙げたおすすめのお店、設備情報の中には、調査をしていく上で店舗件数の上限や基準等で調査項目からは対象外となってしまう内容もあったが、その点は、コラム欄等の別の形でバリアフリーハンドブックに反映できるよう、検討していく事が確認された。その内容を踏まえた上で、バリアフリーハンドブックのコラム欄等の情報の載せ方や掲載したい事柄を話し合った。

②福祉フォーラムの企画案について情報共有

一般市民に調布の福祉の理解を広げていくというテーマで、開催予定の福祉フォーラムの企画案について情報共有し、意見交換を行った。

③市役所職員向け研修の報告

市役所で行われた市役所職員や関係機関を対象とした、障害者差別解消法及び合理的配慮の研修についてその内容を共有した。また、シンポジストとして参加された委員の方に話された内容や感想等をいただいた。

主な意見

- ・高次脳機能障害により記憶障害がある方にとって、大型スーパー等で買いたい商品の場所を案内してくれる配慮はとても助かる。
- ・沢山ある書籍の中で探している本がどこにあるかを検索できる機械がある。私は、コミュニケーションが苦手なので人に教えてもらうよりもこういった設備がある方が助かる。
- ・視覚障害は店員が来てくれれば助かるけど、他の障害でコミュニケーションが苦手な方だと、同様の配慮だと困ってしまう事がある。
- ・同じ店にみんなで行ってみるのはどうなのか。そのお店を利用してみて個々に異なる利用しやすい、利用しにくいが出てくると思う。
- ・市外の大型店舗で入口付近に店員を呼ぶボタンがあり、押すと店員が飛んできてくれて、色々な要望を聞いてくれる。そんなサービスが市内でもあると良いと思っている。
- ・新宿のビックカメラでは手話ができる店員が沢山いた。調布トリエのビックカメラは対応してくれたけど、手話が解らず行きたい場所に行けなかった。手話ができる人が増えると嬉しい。
- ・頭を使ったり、新しいことやったりするとパニックになってしまうことがある。パニックになると自分が何をやっているのか、人が何を言っているかが解らなくなる。

まとめ

生活する上での困りごとや求めている合理的配慮についての意見交換を通して、一方で必要な配慮が他の障害者にはその逆となってしまう事が確認された。それぞれの障害に全て共通し、有効なバリアフリーやユニバーサルデザインは実際には無く、個々に異なる合理的配慮をバリアフリーハンドブックのコラム欄等で今後も伝える事が重要である。

これまでの到達点

・第1回では、今年度の障害理解の促進ワーキングの方針や目的について委員と共有した。また、障害理解を促進していく一つの方法として、今年度作成するバリアフリーハンドブックに、参加委員の方々の意見を反映させていく事を提案し、その意見を出し合った。日頃生活の中で活用しているお店やその理由などを具体的にエピソード等も交えて話し、障害特性によって一人一人異なる合理的配慮をお互いに知り、その内容をハンドブックのコラム欄等で発信していく事が提案された。

・第2回では、前回のワーキングに引き続きハンドブックのコラム欄に載せて、伝えていきたい情報について皆で意見やアイデアを出し合った。意見交換の中で障害ごとに必要となる合理的配慮等は、個別性があり、ある障害当事者の求める配慮やバリアフリーが、他の障害当事者にはバリアとなってしまうケース等も共有・確認された。

今後の展望

今後も、さまざまな生活場面で個々の障害特性によって異なり、必要となる合理的配慮等の意見をお互いに出して、お互いに理解し、その内容をハンドブックのコラム欄やその他の方法で市民に周知していく方法についても協議していく。